

ふれあい

平成22年 9月 第294号

大代地区コミュニティ推進協議会
〈広報部〉

事務局：大代地区公民館

☎364-8442

〈掲載目次〉

- 大代地区長ブロック研修会
防災先進地視察 1
- 流灯花火大会を終えて 2
- 女川原子力発電所及び移動研修について 2
- 自動車の保険について考えてみませんか 3
- 柏木神社境内清掃
ボランティア募集のご案内 3

- グラウンドゴルフ大会に参加しませんか 4
- 貞山運河周辺清掃のお知らせ 4
- 夏休みの思い出 4
- 暑い暑い夏の日 4
- 夏の健康法 5
- 大代の歩み(三十) 6
- ふれあい短歌・ふれあい俳句 6

大代地区長ブロック研修会防災先進地視察
大代北区町内会長 加藤 渉

先進地に選んだのが南三陸町、当市と防災技術、施設、設備、運用の違いを見聞、当市に活用できる物は無いか、我々の目的、こと津波に対しては、当市と、地形、形状の差があり、津波対策に集中している。行政組織の格付けを見ると、多賀城は『市』南三陸は『町』当市は、格付けから言うと1ランク上、成すことも大差はないだろうと、高を括ったのが裏目に、淡々と、誇らしげに説明する担当者の口からは、予定にない言葉が飛び出してくる。



先ず、施設の相違から、電池だけが自前で各世帯に防災無線の端末が、町から無料貸与で設置されている。広報塔の音声も、デジタル化され、ノイズのない、澄み切ったもので放送される。デジタル化に伴い高い山に、無線中継所を有し、各広報塔に送信される。送電停止の場合でも、自動切換えの蓄電装置や発電機が起動するシステム。また、潮位変動の観測も四港に設置され、監視カメラが機能している。南三陸町の、ホームページにアクセスすると、ウェブカメラのようにコントロールや、アクセス権の取得はできないが、見ることが出来る。次のURLにアクセス。

www.town.minamisanriku.miyagi.jp/
遠隔操作のできる防潮ゲートは大型ディスプレイで現況を把握、この場所からコントロ

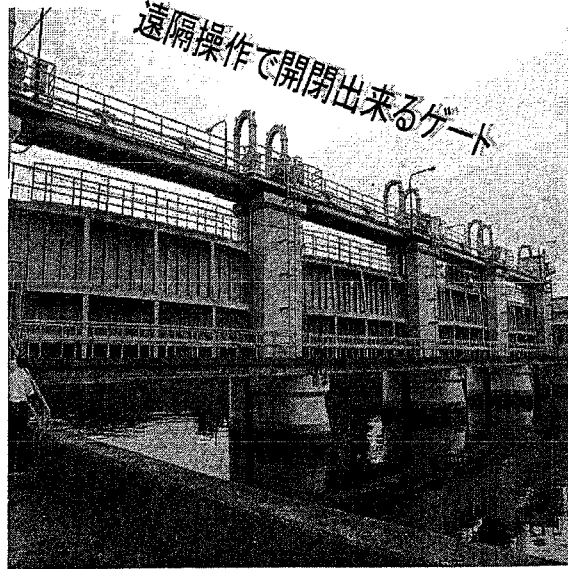
ールしている。時を問わず専従職員が監視、危機をモニターで確認できる。ここには危機管理課が別棟にあり、交通、防犯とは隔離されている。



ここも 360 度の視野をコントロールできる監視カメラがあり、消防署の端末で受像している。周辺の避難状況を確認し、緊急時の開閉操作ができる。

また、当市と比較する対象物に、議会中継の映像が、学校、公民館、病院に設置してある端末(ディスプレイ)で視聴でき、勿論ホームページにアクセスするとパソコンでも見ることが出来る。当市と南三陸町の比較に、前程万里を隠し切れない、南三陸町は、以前の津波による被害が甚大であったことから、最優先課題として対処しているのがうかが

えた。多賀城市の、雨水対策に似ている。何事にも即応できる施設、設備が、市民に安堵を与える。足で情報収集する時代でないことに、先進地との相違を感じた。



(あまりにも格差をひろげるような質問はしないように気を配る区長諸氏)

流灯花火大会を終えて

流灯花火大会実行委員長 三浦 徳男

残暑の続く中、八月二十一日(土)

大代地区の伝統行事のひとつ、流灯花火大会を開催しました。消防団第六分団、第一・第二百寿会、こども会育成会、のり業者始め五区の役員の方々など多くの皆様が暑いなかでの準備や片付けにご協力をいただき、事故もなく終了できましたこと厚く御礼申し上げます。

慰霊祭につきましては、大代地区の先人達の水難事故者の慰霊と地区の安全を祈願し、西園寺住職による読経をいただく中、地区住民の多くの方々にご焼香を賜りました。ご先祖の供養とご家族のご健康等祈願されたものと察しられました。その後、暁流一二三会社中の皆さんの踊り、こども会育成会の子供達が描いた灯籠を貞山運河に流し、最後に花火の打ち上げに歓声が上がり流灯花火大会が終了しました。例年どおりこの伝統行事が地区住民の交流の場と住民間の連携強化になったものと確信しております。

なお、開催場所が狭いことで付近住民の皆さんには、音、煙、ゴミ等々ご

迷惑をおかけしたものと思いますが、大代地区の伝統行事であることに免じてお許し下さい。

終わりに、ご協力いただいた方々に重ねて感謝を申し上げます。

女川原子力発電所見学及び移動研修について

移動研修について

大代地区防災対策協議会
今年度、防災協の事業計画に、原子力発電所の見学会を挙げておりましたが、去る七月十三日、東北電力(株)様のご協力により、大代五区より四十六名の参加のもと、移動研修が行われました。

出発前に本人確認の為の身分証明書の提出確認を行い、午前九時前に公民館前を出発、一路女川原発へ。車内では電力の渡部課長様の原発の概要等の説明を受け十時三十分頃到着。その後先方ガードマンによる参加者全員の身分の確認、車内外の危険物の有無の確認等を行い、原発のPRセンターで原子力発電の概要を受け、その後原子力発電所内へ案内され、直接発電所を見学できました。原子炉圧力容器、格納容器、タービンと発電機等、特別なガラスで囲まれた室を見学することが出来ました。PRセンターで事前に

説明を受けていた燃料、制御棒、復水器と温排水等、頭に入っている間の見学で、我々にとつてはおどろきと安心感をもって見学することが出来たようです。

見学後に防災協よりアンケートに答えて頂きました。この結果については、防災協発行の広報にて皆様にお知らせ致します。帰路途中マリノパール女川にて各自お買物、休憩を取った後、大代へと向かい、定刻公民館に帰ってまいりました。今回の研修に各方面よりご協力頂き、紙面をお借りし御礼申し上げます。

自動車の保険について

考えてみませんか

大代南区 針生 吉治

ある週刊誌を読んでいたら、こんな記事が目に入ったので知らせたくてペンをとりました。事故にあつたらどうするということです。

今は四台に一台が任意保険未加入とありました。縁起でもない話だが、あなたが事故で死んでしまったら、その場合残された家族にどれくらい保険金が入ってくるのだろうか。ポイントになるのは、加害者が任意保険に加入しているかどうかです。加入していれば、そのひとの年

齢や所得によりますが過去には、働き盛りでお亡くなりになった方に三億円超える額が支払われたケースもあつたそうです。しかし、自賠責保険、つまり強制保険だけしか加入してなかったとしたら、最高でも三千万円しか支払わなかったという事です。

ずいぶん差が生じるようだが、任意保険の加入率はそれほど低いのか、損害保険算出機構の資料によると任意保険加入率は、七十二・八%に留まっています。

ちなみに、この加入率は景気の低迷を反映してか、この十年横ばいです。例えば、未成年者がスポーツカーに乗る場合の保険料は年間で五十万円ほどになることもあるそうです。さらに保険会社がリスクが高いと判断した場合は加入を受け付けないこともあるとのこと。こんな人に事故を起こされたら被害者もたまらない。もっと怖いのはオートバイの任意保険の加入率は四十%以下です。強制保険にすら入っていないオートバイも珍しくありませんと、自動車事故に詳しい人や保険ジャーナリストが言っています。

強制保険未加入の原付オートバイにひかれて会社員が死亡した事故の相談を受けた人がありますが、加害者が学生だっ

たこともあり、被害者は満足な賠償も受けられないまま泣き寝入りしたこともありました。万が一、保険未加入者の車両にひかれてしまった場合、裁判を起こして賠償金を得る事はできないのか、仮に裁判で数億円単位の賠償判決が出たとしても加害者に十分な資産がなかったり自己破産して免責を受けてれば、債務は帳消しになってしまうということ。このようなことにならない為にも保険に加入することは大事だと感じました。

柏木神社境内清掃

ボランティア募集のご案内

柏木神社総代会長 内ヶ崎 勝夫

柏木神社は、大代地区唯一の守り神で、鎮守の森を背に日々皆様の安寧を祈願いたしております。境内には、四季折々自然を感じさせる樹木が生育しており、これからも、地区発展を願う鎮座されることと存じます。その神聖な境内を、皆様の御協力を得て清掃したいと存じます。多くの方のご参加をお願い申し上げます。

一、実施日 九月十四日(火)

二、作業時間 午前九時から十二時

三、集合場所 柏木神社境内

※軍手を持参ください。

グラウンドゴルフ大会に

参加しませんか

コミュニティ体育部

残暑厳しい折、皆様には如何お過ごしですか。いつもコミュニティに協力ありがとうございます。

大代地区コミュニティ推進協議会主催によるグラウンドゴルフ大会を十月二日(土) 東部緑地公園にて左記のとおり開催します。

記

期 日 十月二日(土)

時 間 九時集合 九時三十分開始

場 所 東部緑地公園(あずまや付近)

参加費 三百円

申込期日 九月二十日(月) 締切

申込先 大代地区公民館まで参加費

を添えて申し込みください。

皆様のご参加をお待ちしております。

なお、十月二十四日(日)にはボウリング大会も予定しております。ボウリング大会概要につきましては、広報「ふれあい」十月号に掲載いたします。

貞山運河周辺清掃のお知らせ

コミュニティ環境美化部

日時/十月三日(日)

午前六時から(一時間程度)

集合場所/大代地区公民館

雨天の場合は中止(小雨決行)

手袋を持参して下さい。

ゴミ拾い用のゴミ袋として、レジ袋を

一人二枚持参してください。

大代地区の皆様のご協力お願いします。

夏休みの思い出

大代北子ども会育成会 高橋 博

今年の夏の予想は冷夏であったが、いざ夏休みに入ると連日30℃以上というまれにみる暑さで子どもも親も何もしたくないと思う日が続きました。それでも子ども達は熱中症にもならず毎日元気で水遊びやプールで暑さ対策をとりながら元気で夏休みを過ごしているようです。

この様な今まで経験した事のない暑さの中で子ども達を意義のある夏休みにするためにどうするか、育成会役員一同大変苦労しているのが現状です。行事を夏休みの暑い時期をずらしたり、子ども達の安全を第一に考えています。

今年のような酷暑は今後もあるかもしれませんが。よい勉強と経験になったと思います。どのような状況にあれ、育成会の活動は続けなければなりません。

今年は大人も子どもも何事もなく連日の暑さの中で無事だった事を良しとし、今後の子ども会育成会を発展させていくことです。

暑い暑い夏の日

大代南区 星 繁子

今年もまた暑い暑い夏の日がめぐってきました。去る八月十五日は六十五年目の終戦の日です。多感な青春期を戦時生活で過ごした私にとってはとても忘れられない一日です。広島・長崎への原子爆弾の投下は東北の片田舎に住む私達にとっても大変な生活の不安でした。食べ物、着る物何もない。何時B29の空襲があり爆撃を受けるか分からない。仙台大空襲や塩釜までも標的にされ夜は、電球に黒いカバーをかけ必要な一点だけを明るくし唯一楽しみの夕食も大根の干煮や大根糧といつて、大根やジャガ芋の小さい物を特別の調理器具で削り、今ならとても御飯とは思えない。それでも食べられるだけいと母は私達を説得し、戦地の兵隊さんと都会で空襲を受けた人

々の事を話した。今は物資が世に溢れ、使い捨ての時代の様に受け止められるが、限りある資源や水、大気、豊かな山河までも汚染され、近い将来人間の住めない環境になるとの説もある。

現実に今年の連続猛暑や洪水・地震と相次いで世界各地の災害はその前兆の様に思われ、終戦時の混乱とはまた違うスケールの大きい問題が感じられる。私は毎年八月に入るとマスコミの報道に注目しておりませんが、今年は終戦六十五年の節目の年でもあり、また戦地で従軍し運良く帰還された人達が高齢になり、今話さないとならぬ風化してしまうと、戦争の恐ろしさや酷さを語った映像が多かった。ある人は一緒に戦っていた戦友が目の前で倒れ、それを残して自分だけが帰還した後めたさを涙ながらに語り異国で無念の死を遂げた戦友の為に二度と戦争は起こさない語り部になろうと口を開いた人もおりました。今NHKで放送されている「ゲゲゲの女房」でも水木しげるさんが戦争で片腕を失くした実体験を終戦の月に合わせる様に放送されており、無い無いづくしで苦しかった私達の生活は、今だに異郷で眠る人々、国内でも原爆に合われた広島・長崎の人々、空襲で

亡くなられた人々と沢山の戦争犠牲者がおります。それに比べると幸せだつたと今ここに生きる喜びを感じます。そして二度と戦争を起こさない、毎年終戦の日には犠牲者の御冥福を祈りつつ書かせていただいております。その場を頂き誠にありがとうございました。

夏の健康法

大代南区 渡辺 正平

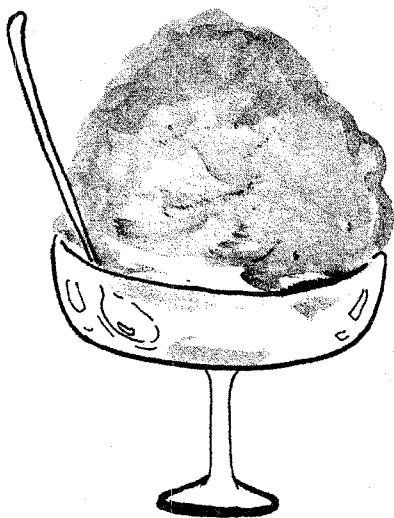
今年の夏は高温による暑い日が多いようです。この様なときの対策として、まず日差し対策を万全にしましょう。外出時は紫外線をさけるため日傘や帽子をかぶり、日焼け止めクリームを使用すること、特に午前十時から午後二時にかけて紫外線が最も強い時間帯です。

次に胃腸にやさしい食生活を心掛ける。まず起きてすぐには食べないこと。体を少し動かすと胃腸も目を覚ます動きが活発になります。寝る一・二時間前には何も食べないこと。夏場は汗をかくので水分補給が大切です。また食欲が進まない場合もあるので、少量ずつ栄養のあるものを各種摂取しましょう。よく噛んで食べる、腹八分目を心掛けることも重要です。

次に睡眠時間を十分にとることです。まず不眠の原因対策として、暑くて(寒くて)寝付けない寝室の環境は整っているか(空調・照明・カーテンでの遮光・深夜放送のかけ忘れ・夜更かしになる行動をしない)。

次に心配事があるのはストレスがありますが、物事に熱中しすぎや、くよくよしないこと。なぜか目がさえ寝つけない時は、生活リズムを守っていないので、規則的な生活をする。午後三時以降は仮眠をしないことです。

まだまだ暑い日が続くようです。熱中症は少し体調が悪いと思っても起こります。日中に出かけるとき、長い時間外にいるときはしっかりと水分を取りましょう。体調にしっかりと気を配り、この夏を乗り切りましょう。



大代の歩み (三十)

大代南区 渡邊 巖

前号に記した「農民層の分化」の原因となつたものが農民の持高の変動であり、その発生に至る農家の経営を見ると大まかに分けて次の四つの形態があつた。

- 一、他の農民から田畑を譲つて、持高を減らしている。
- 二、他の農民から田畑を譲り受け、持高を増やして経営を拡大している。
- 三、譲り受けと譲り渡しを繰り返して、不安定な経営を続けている。
- 四、村内のみならず他村の農民とも田畑の譲り受け契約を結んで持高を増やし、規模拡大を図る地方地主とも言うべき農民も存在した。

その他少数例ながら、『持添高』と称して、死亡等によつて耕作者の居なくなつた田畑の処理方法として、藩が年貢・諸役を徴収する為に村を代表する肝入に責任を持たせ、村民に分担耕作をさせたものである。

面積の広狭はあつても、このような田地の売買移動は大代村を含む多賀城地域だけに止まらず藩内全域に広く行われていて、農村の経済事情の変化によつて頻

発する土地譲渡を、藩を禁止できずに事実上黙認していたのである。

しかし、この様な田畑の移動は農民の経済生活の基本にかかわり、農民間の金融問題の起因する實地関係にまで発展し、全国的に発生する様相を呈していた。

仙台藩領もその例外ではなく、経年に従い土地の実測面積が届出の諸帳面と合致しない事態が発生した為に、年貢や村の諸経費負担に不公平を来し、これ等が原因となつて遂に寛政九(一七九七)年三月(五月に亘り、仙北(大崎耕土)諸郡に一揆が発生したのである。

藩はこの事から『土地紛争は国乱の基』との教訓を得て、土地譲渡を追認した。

続く

ふれあい短歌 (勇将特集)

大代西区 藤田 遊子

勇将も油断をすれば モルモット

謀反の罫に生涯を閉づ

農民の子供がやがて 天下人

金の鯨鯨 栄華を誇る

機に乗ち 東軍勝ちたる 関ヶ原

三百年の 基礎築きたり

ふれあい俳句

大代西区 藤田 遊子

(歌枕特集)

千年の末の松山 色変へず

沖ノ井の 奇顔の石や 雁渡る

おもはくの 橋ぼつぼつと 桃の花

陸奥の 野田の玉川 霧の濃し

壺の碑を 覗く泪や 花菖蒲

浮島や波の間に間に 萩の花

笠神西区 本郷 勝子

夏まつり 大きく振って 御神籤吉

(浅草を散策)

浅草寺 老若男女多勢 汗が沸く

浅草寺 目の前にスカイツリタワー

夏の月

夏の浅草 ドレスを買って 発表会

立秋や 虫も正確 鳴き始め

八幡 森 季子

那須岳のロープウェイに 秋の風

コテージに 殿様パッタ お出迎え

避暑旅行 窓越しに見る 遠花火

秋晴や 気球より見る 那須連峰

愛犬も 暑気当たりして 通院す